資料２

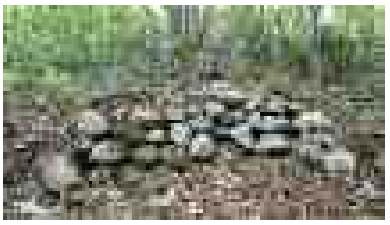
学校教育で実施できる郷土に触れる体験メニュー（案）

① 砂金掘り体験

今金町は「今でも金がとれる町」。後志利別川上流域一帯（美利河、花石地区）には、江戸時代初め頃とされる大規模な砂金採掘跡があり、またカニカン岳中腹にも金山跡があります。この時期に全国最大のゴールドラッシュが起きたと考えられています。昭和 30 年代まで砂金掘りで生計を立てた人もいて、採取用具一式を保管庫で見学することができます。

体験を通じて、砂金掘りの技術だけでなく、実際の採掘跡や採取用具を見学し、今金町の歴史や文化を学びます。





所要時間	180 分～240 分
対象学年	小学校高学年以上
会　　場	花石地区の支流、美利河地区の砂金採掘跡・保管庫
定　　員	指導者 1 名につき 10 名程度
持 ち 物	帽子、長ぐつ、虫よけスプレー、タオル、着替え

② 石器づくり体験　～旧石器時代の石ナイフを作る～

今金町には全国最大規模の旧石器遺跡・ピリカ遺跡があります。特徴的な石器として、野牛などの大型動物の狩猟用の石器や、肉を切ったり皮革をなめしたりする石器等があり、鋭利な刃物が主なものです。また装飾品の首飾り・石製小玉も出土しており、これは日本最古の装飾品です。

体験を通じ、石割りの技術を学ぶとともに、当時の人々の暮らしぶりについて理解を深めます。時間があれば、周辺で石材を探すところから始め、作った石器を使うところまで体験する方がより効果的です。



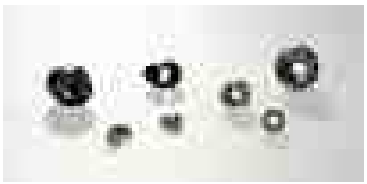


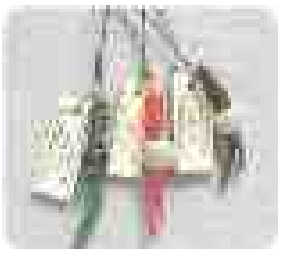
所要時間	120 分前後。野外体験も行うのであれば 1 日日程。
対象学年	小学校高学年以上
会　　場	ピリカ旧石器文化館
定　　員	指導者 1 名につき 10 名程度
持 ち 物	長ズボン、スニーカー、軍手、ゴーグル（下線は教委）

③ 石器づくり体験　～ピリカのストラップづくり～

今金町には全国最大規模の旧石器遺跡・ピリカ遺跡があります。特徴的な石器として、野牛などの大型動物の狩猟用の石器や、肉を切ったり皮革をなめしたりする石器等があり、鋭利な刃物が主なものです。また装飾品の首飾り・石製小玉も出土しており、これは日本最古の装飾品です。

体験を通じ、当時の人々の暮らしについて理解を深めます。体験用の軟らかい石材を用いますので、だれでも作りやすくしてあります。





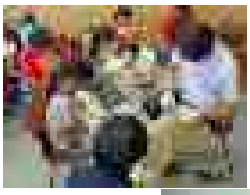
所要時間	60 分前後
対象学年	小学校低学年以上
会　　場	ピリカ旧石器文化館
定　　員	指導者 1 名につき 40 名まで
持 ち 物	特になし

④ 石器づくり体験　～縄文時代の矢じりをつくる～

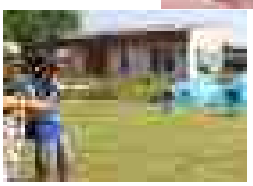
縄文時代のはじまりとともに、森にすむシカなどといった中型・小型動物を狩るための矢じりが作られるようになりました。町内各地に多くの縄文時代の遺跡があり、矢じりも発見されています。

体験を通じ、作り方を学ぶとともに、縄文時代の人々の暮らしについて理解を深めます。

時間があれば、矢じりを矢柄に装着し、弓を使って射的の体験をする方がより効果的です。矢の素材は縄文時代に使われていたものと同じ木材を使い、縄文時代人の知恵を学びます。





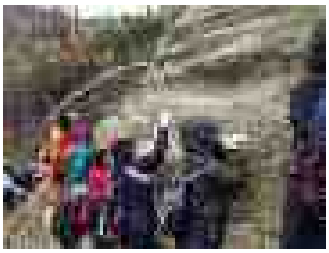


所要時間	120～180 分。弓矢による射的体験まで行う場合は 240 分。
対象学年	小学校高学年以上。縄文時代を学ぶ時限で実施するのが望ましい。
会　　場	ピリカ旧石器文化館
定　　員	指導者 1 名につき 15 名程度
持 ち 物	長ズボン、スニーカー、軍手

⑤ 化石採掘体験

今金町は貝化石が大量に採掘できる地域として知られています。これらの貝化石はすべて海にすむ種で、奥種川地区のものは 1500 万年前頃にあたり、この地域一帯が海だったことを教えてくれます。土地の隆起で約 40 万年前頃から陸域化し、現在に至ります。採掘場の標高は約 100m あり、壮大な地殻変動を体感することができます。

体験を通じて、地層のでき方以外にも、自分が掘り出した貝化石の生態を調べ、当時のこの地域がどんな環境だったかについて考えるきっかけとします。





所要時間	180～240 分
対象学年	小学校 6 年（理科「地層」）で実施中
会　　場	奥種川地区の貝殻橋付近の露頭
定　　員	指導者 1 名につき 20 名まで
持 ち 物	帽子、長靴、軍手、ビニル袋、マイナスドライバー、筆記用具、標本カード、化石サンプル、トレイ、クリーニング用歯ブラシ（下線は教委）

⑥ 火おこし体験

ピリカ遺跡の発掘調査では石器とともに焚火の跡も発見されました。回収した木炭を分析した結果、多くは当時生えていた針葉樹・グイマツの材だったことがわかりました。現在の北海道では絶滅種です。

体験を通じ、火おこしの大変さを知るだけでなく、当時の暮らしぶりについての理解を深めます。用具は発火させやすいマイギリ式（江戸時代以降）を用いますが、より原始的なモミギリ式の用具もあります。

なお、グイマツはピリカ遺跡公園内に植栽されており、身近に見学することができます。





所要時間	60～120 分
対象学年	小学校低学年以上
会　　場	野外が望ましい。室内であれば消化体制を備えること。
定　　員	指導者 1 名につき 15 名前後
持 ち 物	用具一式は教委で所有

⑦ 岩石標本作り教室

今金町は多種多様な岩石が採集できる地域としてもよく知られています。メノウは明治から昭和期にかけて町の特産品となり、頁岩はピリカ遺跡の石器石材、マンガン鉱はマンガン鉱山があり、大理石、御影石、ゼオライトは採石場がありました。このようにこの地域の岩石は町の産業に発展したものが多くあります。

自分たちが川で拾った岩石を専門家に鑑定してもらい、標本箱を作る体験を通して、岩石についてだけでなく、地形の成り立ち等について学びます。講師は元町教委学芸員の能條教授が最適です。





所要時間	1 日日程（午前中に採集、午後に鑑定、標本箱づくり）
対象学年	小学校低学年以上
会　　場	後志利別川流域
定　　員	指導者 1 名につき 20 名～30 名
持 ち 物	長靴、ビニル袋、筆記用具、標本箱、標本カード（下線は教委）

⑧ 後志利別川の川下り体験

川下りを通して、後志利別川の水質の良さを直に感じるとともに、そこにすむ魚や水生生物、周辺の自然を身近に体感し、日本一の清流が保たれている自然環境について理解を深めます。貝化石が多く産する露頭も見学できます。例年、社会教育（総合型地域スポーツクラブ主催）が体験会を実施している。

最近普及し始めている SUP ボードの川下り体験も検討。



所要時間	1 日日程
対象学年	小学校高学年以上
会　　場	後志利別川上流域（花石、中里、住吉地区）
定　　員	20 名程度
持 ち 物	用具一式はマザーピリカが所有。指導者資格を有する団体の協力が不可欠

その他、検討中の体験

○総合公園の森林散策





総合公園から今金八幡宮裏までの雑木林一帯は、道の鳥獣保護区に指定されている天然ブナ林です。市街地の真ん中に豊かな森があり、年間を通じて身近に触れることができるのは今金町民の特権と言えます。この区域にある樹種は下記の通りで、大半の木に樹名板が付されています。

森にはリスや野鳥も生息しており、散策にあたっては専門家（ネイチャーガイド）を招聘し、案内を受けるのが望ましいです。

令和元年度に社会教育で「植物標本作り教室」を開催した実績があります（外部講師を招聘）。

・天然種（ブナ、ミズナラ、ハウチワカエデ、ミズキ、シナノキ、トドマツ、オオカメノキなど）
・植栽種（クリ、ヤマボウシ、ハクモクレン、カツラ、クルミ、フジ、メタセコイア、サクラ、コウヤマキ、ライラック、アカエゾマツなど）

○マンガン乾電池を作ろう





美利河地区はマンガン鉱山で栄えた地区で、今でも川でマンガン鉱を採集できます。同地区には鉱山で使われていた様々な用具類、機械一式が良好に保存されています。

これらを活用し、乾電池を作る体験を通して、かつて基幹産業だった鉱山文化を学びます。対象学年は、理科の授業で電池を学ぶ学年（中学生）が望ましく、運営に当たっては、理科教員の協力が不可欠です。

資料３

令和4年度 文化財保護事業全体概要

【社会教育費－文化財保護費・文化財保護施設費　計6,104千円】

※総合計画　5. 文化振興　めざす姿「郷土に誇りを持てる人材を育成するまちづくり」

※うち国庫補助金 計2，209千円（見込額）

①まちのお宝発掘事業

・埋蔵文化財発掘調査事業（令和4～5年度）
・貴重資料の滅失防止のための意識啓発
・いまかねお宝鑑定会の開催



お宝鑑定会で貴重資料の掘り起こし



デジタルアーカイブ事業（DVDソフト化）

②まちのお宝保存事業

・保存環境の適切な管理（主に湿度管理）
・収蔵資料の適切な整理（デジタル化）
・昭和の暮らし体験用トランクキットの整備
・写真・映像デジタルアーカイブ事業
・町内各小中学校（廃校含む）の校歌の記録化（団体と協働）

③まちのお宝磨き上げ事業

・いまかねセミナーの開催（地域人材の活用）
・総合的把握調査の実施（いまかね遺産の発掘）
・史跡ピリカ遺跡基本調査（出土品整理・科学分析）
・重要遺跡所在確認調査（未調査箇所の現地踏査）



砂金採掘跡（流域は国内最大規模）



旧住吉頭首工水門（農業発展の基幹施設）

④いまかね再発見事業

・新規指定記念いまかね遺産ツアー（仮称）の開催
・ピリカ旧石器文化館体験メニューの拡充
・今金っ子むかし探検隊（子ども向け）
・企画展の開催（文化祭、郵便局等）

